

# IHE 統合プロファイル「可搬型医用画像」の運用指針第 1 版

平成20年 5 月 14 日

日本医療情報学会

## 1. 解釈と運用

本指針を以下のように解釈し運用するものとする。

なお、本指針は、すでに HELICS 推奨となっている DICOM 規格の Part 10 Media Storage に準拠しているので、そちらも参照されたい。

## 2. 媒体

CD の場合には、ISO 9660 Level1 準拠のこと。すなわち；

- ・ディレクトリ名は8文字以内、ファイル名は8文字以内+拡張子3文字以内、ただし DICOM 画像ファイルは拡張子なし。
- ・ディレクトリ名、ファイル名に用いる事が出来る文字は、英大文字、数字、アンダースコアのみである。
- ・ディレクトリの階層は、ルートを含めて8階層まで。

なお、CD を作成するシステム等が ISO9660 Level2 など、ISO9660 Level1 の上位規格に準拠しているなどの理由から、ISO9660 Level1 に完全準拠した CD を作成することが困難な事情があるシステムにおいては、可能なかぎり、ISO9660 Level1 に準拠するものとするが、少なくとも上記3点については遵守すること。

## 3. ディレクトリ構造

DICOM コンテンツに関しては、DICOM Part 10 Media Storage に定める方法による。つまり、DICOMDIR はルートディレクトリ直下にあり、それに並列してDICOM画像ファイルが入ったフォルダが置かれる。Web コンテンツ、その他コンテンツはオプションである。置く場合は末尾図(IHE-J の HP 上、PDI に関するベンダーワークショップ資料より引用)に示される位置に置くこと。

## 4. ビューワなどデータ利活用のためのアプリケーションの格納方法

- ・自動起動の設定はなるべく避ける。
- ・ローカルマシンにインストールを必要とするビューワなどソフトウェアを格納する事は妨げないが、自動インストールの設定にすることはなるべく避ける。
- ・アプリケーションを自動的に起動またはインストールするリンクをHTMLファイルに記載することはなるべく避ける。
- ・アプリケーションの起動にあたってはかならずユーザに対して、実行しようとしているソフトウェアは外部から提供されたメディア上に存在するソフトウェアであることを提示した上でそれを実行してよいか問い合わせ、ユーザがそれを拒否できるようにすること。
- ・アプリケーションがローカルマシンのディスク上にファイルを作成しようとする場合にも、そのことを通知し拒否ができるようにすること。

## 5. 日本 HL7 協会からの関連規格との関係

すでに HELICS 推奨となっている「(HS006) HL7J-CDA-004 可搬電子診療文書媒体規格」、および平成20年1月に申請された「診療情報提供書 V1.0」は、先述の図に従って DICOM 画像、DICOMDIR を格納し、other files の部分に HL7 形式の検査結果、処方内容、HL7 CDA 形式の患者への文書(前者の場合)、紹介状(後者の場合)が格納されており、従ってこの二つは本規格に準拠している。

診療情報提供書、あるいは患者への文書とともに、必要であれば検査結果、処方内容なども媒体に格納する場合は、先述の2規格を利用するべきであり、画像のみの本規格媒体と、紹介状などの別媒体とに分けることは、患者取り違えの問題もあり、推奨されない。

DICOM 画像のみを媒体に格納する場合は、本規格が該当するが、病院での病診連携部などでの受け入れを考えると、同じ理由で、患者 ID 情報などの必要最小限情報が CDA 文書となっている「(HS006) HL7J-CDA-004 可搬電子診療文書媒体規格」を利用すること、つまり必要最小限の患者 ID 情報文書を PDI 媒体に格納することが将来的には望ましい。

以下にユースケースごとに使うべき規格をまとめる。

### ・診療情報提供書と、それに付随する画像の場合

： 平成20年1月に申請された「診療情報提供書規格(医療機関への紹介状)v1.00」

### ・患者の求めに応じて提供する CD で、画像を含む場合

： 「(HS006) HL7J-CDA-004 可搬電子診療文書媒体規格」

### ・画像のみの場合

： 本規格 但し将来的には患者漢字氏名や他施設での患者 ID などの情報も含むことが出来る「(HS006) HL7J-CDA-004 可搬電子診療文書媒体規格」の利用が望ましい。

## 6. 日本医療情報学会からの、患者に渡す医用画像 CD についての申し合わせ

日本医療情報学会では、関連学会、団体(日本医学放射線学会、日本放射線技術学会、日本画像医療システム工業会、保健福祉医療情報システム工業会、日本 IHE 協会)に向けて、医用画像情報を含んだ CD を患者に渡す場合、受け取り手の側の状況を配慮し、臨床現場での混乱を未然に防ぐため、以下の申し合わせをしている。

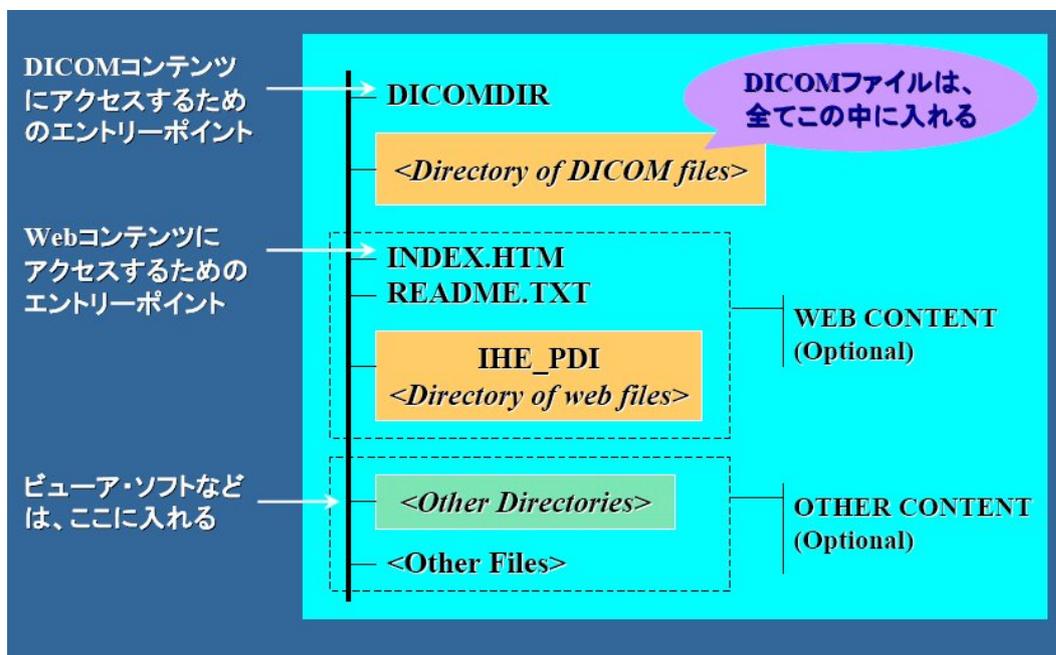
(対象) 患者の手を経て、他医療施設等に医用画像情報の入った CD を渡す場合。但し、特定の医療施設等に向けて、受け取り手が内容について了解している場合には、対象としない。

以下の事項を満たすものが望ましい

1. オートスタートを避ける
2. DICOM 違反のタグを含まない
3. 1CD に1患者 ID とする、また、1CD に数スタディ程度とする

4. IHE PDI 準拠とする
5. 受け取り側の状況を配慮し、大量の画像枚数となることを避ける
6. SS-MIX などでは示されている、あるいは IHE PDI では示されているファイル (DICOMDIR, DICOM 画像、HL7 ファイルなど) 以外のファイル (PDF、単体の JPEG、テキスト、表計算など) は、別ディスクとするか、同一 CD に入れる場合は PDI の示すとおり、Other files/folders のところに入れ、そのことをディスク面あるいは README.TXT に明記すること

参考: ディレクトリ構造の図示



(以上)